

パンデミック初期 1 年間における情報急増の軌跡： UpToDate と DynaMed

大瀬戸貴己、島田祐衣、鈴木孝明
奈良県立医科大学附属図書館

I. 背景

2020 年はじめから、新型コロナウイルス感染症が爆発的に拡がり、2020 年 3 月 11 日、WHO はパンデミック（世界的な大流行）を宣言した。新型コロナの感染拡大に伴い、全国各地の感染者数、感染防止対策、海外の状況など、関連する大量の情報が日々流れた。爆発的に増加する情報の中で、どれを選び、どう自身の行動に繋げるのか、難しい選択を迫られる日々が続き、パンデミック初期は特に、医療従事者はもちろん、市井の人も、不安を抱え悩みながら生活を回す混沌とした状況であった。

臨床支援ツールは、豊富な情報源を基に作成され、質の高い情報を手間なく入手できる二次資料であり、多くの医療従事者が利用している。またその更新スピードは非常に速い。新型コロナウイルス感染症の世界的な大流行という未曾有の事態で情報が錯綜する中において、臨床支援ツールはどのように信頼のおける情報を提供するのか、パンデミック初期の情報提供について、当館で契約している二種の臨床支援ツール「UpToDate」と「DynaMed」を追跡した。

II. 調査方法

二種の臨床支援ツール「UpToDate」と「DynaMed」について、それぞれで扱う新型コロナウイルス感染症のトピック「COVID-19 (Novel Coronavirus)」、「Coronavirus disease 2019 (COVID-19)」が更新されているかを出勤時に確認し、更新されていれば保存した。なお、臨床支援ツールには電子ファイルへの出力機能がなく印刷のみのため、全文を Word に切り貼りしファイル保存するという古典的な方法を取った。期間はパンデミック宣言時期の 2020 年 3 月から 2021 年 3 月までの 1 年間とした。

III. 結果

UpToDate は Version20 から Version137(117 版増)に、DynaMed は 6190 語から 53288 語 (47098 語増) になり、それぞれ大量の更新や加筆があったことがわかる。なお、2022 年 6 月 3 日時点での同トピックは、UpToDate で Version184 (47 版増)、DynaMed では 30374 語 (22914 語減) であり、パンデミック初期 1 年間と比較して、更新頻度の落ち着きやトピックの分岐が推測される。詳しい調査結果については当日の発表で報告する。